

患者さんおよびご家族の方へ臨床研究のお知らせ

小川赤十字病院 循環器内科では、下記の臨床研究を実施しております。

【研究課題名】

超高齢地域急性心不全入院患者レジストリー研究

【研究責任者】

小川赤十字病院 循環器内科 村上司

【研究の対象となる方】

2019年1月1日から2025年12月31日の間に、当院で急性心不全の診断をうけて入院した患者さんです。

【研究の目的・方法】

高齢者は心不全を合併することが多いです。世界的な高齢化の傾向により、心不全患者は増加傾向にあります。特に日本は、世界で最も高齢化率の高い国の一つであり、この傾向は顕著です。心臓は血液を各臓器へ送るポンプとしての役割を担っていますが、この機構が破綻した結果、呼吸困難・倦怠感や浮腫みが出現し、運動時の息切れなどの症状が出現します。この一連の臨床症候群を心不全と呼びます。治療により、これらの症状が一時的に安定化した状態を、慢性心不全の代償期といいます。感染や塩分摂取過多、怠薬などなんらかのきっかけにより、この平衡状態が破綻することで、呼吸困難や浮腫みが急性に出現します。この状態を急性心不全といいます。心不全は慢性疾患であり、代償期と非代償期を繰り返しつつ、徐々に進行します。心不全に至る原因は、高血圧症、心臓弁膜症、心筋梗塞など多岐にわたりますが、多くは加齢を背景としています。また、医療の進歩により、心不全患者の予後は改善しつつありますが、その結果、心不全患者の更なる高齢化が問題となっています。日本における全国規模の心不全レジストリー研究は、参加施設が大規模の病院で構成されていることが多く、超高齢地域における心不全患者の実態についてはわかっていないことが多くあります。高齢者の心不全は、認知症や、生活環境、社会的な孤立や、運動能力の低下、栄養不良状態など、若い世代の心不全とは背景が異なることが予想されます。埼玉県比企郡小川町は65歳以上の高齢化率が41%（2023年11月時点）であり、超高齢社会である日本の中でも、特に高い高齢化率です。また、小川町で、循環器内科が常勤しており、急性心不全の入院患者に24時間対応可能な病院は小川赤十字病院のみです。そのため、小川赤十字病院に入院する急性心不全患者の実態調査は、超高齢社会の急性心不全患者の実態を反映すると考えられます。薬剤治療や侵襲的治療のみならず、社会背景や、運動機能、栄養状態、認知機能などの実態を把握し、介入点を調査することで、超高齢心不全患者の予後改善に寄与します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

この研究は通常の診療を受けている中で発生した情報（年齢、性別、既往歴などの患者背景、治療に関連した情報、急性心不全治療時の臨床背景など）の収集を主体とした研究のため、患者さんに日常診療以外の身体的及び経済的負担が生じることはありません。

イニシャルは使用せず、カルテ番号も研究番号へ変更して扱います。上記の様に既存の情報を利用しますので、新規に採血などを行うなど患者さんに身体的な負担はありません。

【外部への試料・情報の提供】

外部への情報の提供はございません。

【研究期間】

この研究の期間は、2024年1月1日から2026年12月31日まで（症例登録終了は2025年12月31日で、その後1年は解析期間）です。

【本研究に関する問い合わせ】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご自身が研究の対象になっているかどうか不明である場合でも、ご自身の診療記録を研究に利用してもらいたくない方はお申し出ください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先

〒355-0397 埼玉県比企郡小川町小川 1525
小川赤十字病院
TEL0493-72-2333
研究責任者：循環器内科（氏名）村上 司

苦情の窓口

小川赤十字病院
総務課 TEL0493-72-2333